

青少年委員会担当副理事長

兼 J C スクール委員長方針

堀 拓矢

メンバーの入会のきっかけはそれぞれ異なります。しかし入会した以上、青年会議所という学びと実践の場を通じて、自らを高め、その成果をまちや組織へ還元していくことが求められます。一方、青年会議所活動には40歳までという限りがあります。その限られた時間の中で力を伸ばすためには、自ら限界を設けず、難しいと感じることに挑戦し続けることが重要です。挑戦を重ねる中で培われた経験こそが実現力を育み、一人ひとりが地域の発展を担う人財へと成長していくと考えます。

子どもたちには「やってみたい」という気持ちはあるものの、思い切って行動できる環境が整っていないため、行動することをためらい、挑戦の機会を逃す傾向にあります。このままでは、社会に出る前に自身の判断や実行を試す経験が乏しく、変化の激しい現代社会において、必要な力を身につけられないまま大人になってしまう恐れがあります。だからこそまずは、挑戦すること自体に価値があるという雰囲気の中で、仲間と協力しながら実践することが重要です。そしてその経験を前向きに振り返ることで、「またやってみたい」という意欲が湧き、次なる挑戦へつながっていくと考えます。その中で挑戦することの楽しさを知った子どもたちは、困難に直面しても諦めず前向きに行動し、自らの力で未来を切り拓いていく存在になると考えます。

現在の中津川青年会議所は、会員数の減少に伴い、入会間もないメンバーでさえも重責を担うケースが増えてきました。それは同時に、一人ひとりが大きく成長できる機会でもあります。しかし、基礎なくして成長はありません。本年度、J C スクール特別委員会では、年間カリキュラムを通じ、J C の基礎を学ぶだけでなく、多くの人との関わりの中で学びを深められる運営を行い、新会員が楽しさだけでなく、学びと成長を実感していただけるよう取り組んでまいります。

副理事長には、成果を出すことが求められると考えます。だからこそ私は、組織運営がぶれることがなきよう、組織内外の声に耳を傾け、課題を整理し、委員長やメンバーが迅速かつ的確に意思決定できるよう支援してまいります。そして、委員長が示す方針をメンバーの具体的な行動に落とし込めるようサポートしてまいります。

<青少年委員会>

メンバーには、子どもたちが安心して一歩を踏み出せるよう、寄り添い、励まし、支えていただきたい。また、事業を通じて子どもたちの成長を間近で感じ、将来まちを担う子どもたちを支えることの意義を実感していただきたい。

<JCスクール特別委員会>

1年目で培った姿勢や意識は、その後のJC活動に大きく影響します。だからこそ、安易に物事に優劣をつけず、何事にも積極的に参加し、挑戦していただきたい。その経験を通じて、挑戦する楽しさと達成感を存分に味わい、青年会議所の一員として、まちの未来を切り拓く力強い存在になっていただきたい。